

『タッチ』にみるスポーツと恋愛

Sports and Love in “TOUCH”

1K04A094-1

西條 恵

指導教員

主査 寒川恒夫先生

副査 石井昌幸先生

漫画家あだち充の代表作『タッチ』は甲子園を目指していたエース和也の死をきっかけに、双子の兄の夢を『バトンタッチ』して野球を始めるというストーリーが中心となっており、野球漫画に分類される。しかし、野球のほかに大きな軸として恋愛がある。主人公の達也と双子の弟の和也、そして2人の幼なじみである南の3人の恋愛模様がストーリー展開でも大きな部分を占めている。

そのヒロインの浅倉南は、2つの立場でスポーツと関わっている。

1つ目は、マネージャーとして、そして幼なじみとして、エースピッチャーである達也と和也を応援する立場。このように影ながら男性を応援する女性はスポーツ漫画によく見られる。

2つ目は、自らが新体操のアイドル選手として活躍するという立場である。このように主人公とは別のスポーツでヒロインが活躍することは今までのスポーツ漫画のヒロインには見られなかった形である。

この南の2つの立場に分けて、『タッチ』が描いたスポーツと恋愛、ジェンダーの関係と、それがなぜ多くの読者に支持されたのかを考察した。

まずはじめにマネージャーとしての浅倉南について考察した。『タッチ』におけるスポーツの世界では、マネージャーはジェンダーとセクシュアリティの両面で女らしさを常に求められていること、そして『男性を支え、癒す女性』が理想の女性像となっていることがわかった。まさにマネージャーとしての浅倉南そのものである。そして、実際に浅倉南に憧れて女子マネージャーになる者が増加したことがわかった。

なぜ少年漫画のヒロインであり男性の理想である南が、マネージャーを志す女性にも受け入れられたのか。その背景には、世間の男性像の2つの変化が大きな影響を与えている。1つ目は、スポーツが男性らしさの象徴として女性に認知され、それによってスポーツ選手が憧れの存在となったこと。それによって

スポーツ選手に近い存在であるマネージャーに対する女子の憧れも強まったのである。2つ目は、ラブコメディに現れている、恋愛に重きを置く男性が世間に受け入れられてきたこと。その結果、「彼女のために頑張る」という新たな価値観が認められ、女性が男性と共に戦う存在になり、そこにやりがいを見出す女性がでてきたのである。

次に新体操選手としての浅倉南について考察した。『タッチ』は少年漫画であるため、南はスポーツ選手としても常に女性らしさを求められている。新体操という女らしさを重視されるスポーツ、容姿の美しさによってアイドル扱いされること。南は男性の理想像であるので、それを否定することなく完璧に答えている。しかし、現実の世界で多くの女性は浅倉南と同じようにふるまうことは難しい。しかし、男性が女性スポーツ選手に求めている理想は『浅倉南』と同じなのではないだろうか。そのギャップから、現実の世界では様々な問題が生まれている。例えば、南が直面した野球部のマネージャーと新体操部の両立の問題は、「家事と仕事(スポーツ)の問題とリンクさせて考えることができる。

以上のように、どちらの立場においても、浅倉南はジェンダーとセクシュアリティの両面で社会から期待される女性としての役割を果たし、なお且つ自己実現を果たしている。それが浅倉南が男性だけでなく女性の読者にも愛される理由だと思う。

そして、そんな南を支えているのが、達也である。「男性を支え、癒す女性」が理想とされているなかで、「女性を支え、癒す男性」というのは、めずらしい存在である。

しかし、お互いが支え合い、癒し合う気持ちがなければ、スポーツと恋愛を両立していくことは難しい。

だからこそ、達也と南の関係が支持されたのである。